

JR連合 政策News

第269号

2015年5月27日

自然災害による鉄道被災や 深刻な鹿被害の実態について問題提起！

～尾立副会長(参、大阪選挙区)、参議院財政金融委員会において発言～

5月21日の参議院財政金融委員会において、JR連合国会議員懇談会副会長の尾立源幸参議院議員（大阪選挙区）が、鉄道における自然災害の影響、ならびに全国的に深刻となっている鹿をはじめとした獣害被害について発言を行った。

過去3年間で約100件もの自然災害起因の鉄道被災が発生している実態が国土交通省から報告されたのを受けて、尾立議員は台風等の自然災害による鉄道被災の多くが鉄道用地外からの土砂流入である点を指摘、全てを事業者責任で対処する現状について課題提起を行うとともに、そうした事情を鑑みた鉄道軌道整備法の柔軟な適用の可否について質問を行った。それに対して国土交通省鈴木大臣政務官からは、現行制度の中では鉄道軌道整備法に基づく補助制度のみである旨回答がなされた上で、原則は原則とするも、個々個別の事例をそれぞれ考えながら判断するとの答弁を引き出した。

さらに、尾立議員は、日本全国で深刻な被害となっている上年々増加傾向となっている鹿や熊との列車衝突に起因する獣害被害についても触れ、鳥獣被害が農業だけに限らず公共交通にまで今及んでいることを踏まえつつ、対応を事業者のみに任せることなく、政府としてより積極的に対応すべきと発言した。それに対し、鈴木政務官より、平成25年度1年間で450件もの鉄道での獣害被害が発生していることが明らかにされるとともに、決して事業者の取り組みに任せることなく、事業者間の情報共有ないしは意見交換の定例開催や、鳥獣保護法との関係を踏まえた関係省庁との密接な連携を図り、被害の最小限に努めるとの回答が示された。

鉄道隣地からの土砂流入による鉄道被災、ならびに鹿をはじめとする獣害被害は、多くの現場組合員が苦渋している喫緊かつ重要な課題である。JR連合は、現場組合員の目線に立って、組合員の抱える様々な政策課題の把握に不断に努めるとともに解決に向けて継続して取り組んでいく。

以上

